



第529号

スズキ労連

2025年

2月号

スズキ関連労働組合連合会

静岡県浜松市中央区増楽町20

電話(053)447-3079 FAX.053-489-5523

発行人 武藤憲司

編集人 神保昌世

2025年総合生活改善の取り組み方針

第77回中央委員会 満場一致で可決!

スズキ労連は2025年1月17日(金) 18:00から、第77回中央委員会を開催しました。スズキ労働組合会館(SUN会館)にて中央委員104名(男性80名 女性24名)が参加し、2025年春の取り組み方針の議件が可決・承認されました。各組合では、今後この方針に基づいて職場討議を行い、独自の要求を組み立てていきます。



会場の様子

『2025年総合生活改善の取り組み』具体的要求内容 =抜粋=

1.賃金引上げ

①平均賃金要求

すべての単組は、現下の産業情勢を認識した上で、労働の質的向上、物価上昇、人材確保、賃金の底上げ・底支え、企業内外における格差是正の必要性などの要素を総合的に勘案し、賃金カーブ維持分を含めた引き上げ額全体を強く意識した基準内賃金の引き上げに取り組む。

上記内容を基本に、中小組合の底上げおよび、少なくとも全年代で実質賃金の低下を防止するために、賃金改善分12,000円以上を設定する。直接雇用の非正規労働者については、これまでの取り組みを踏まえ、賃金改善分を設定する。

②個別ポイント絶対水準要求

- ・自らの目指す賃金水準の実現に向け、現行水準を維持し、水準向上や格差・体系是正を図るべく、各単組の状況に応じ、絶対水準の要求に取り組む。

③企業内最低賃金協定の締結

- ・18歳の最低賃金協定締結済みの単組は、自単組の現状を踏まえ、金額の上積みを図る。

18歳の最低要求は 200,000円以上 とする。

200,000円以上の要求が困難な単組は、190,000円以上 への水準引き上げを目指す。

- ・正規従業員のみを対象とした協定を締結している単組は、非正規労働者への締結対象の拡大を目指す。

④年齢別最低補償賃金

- ・各組合は、以下の目指すべき水準を参考に自社に合った水準への引き上げを目指す。

20歳	193,000円	25歳	208,500円	30歳	229,000円
35歳	253,000円	40歳	265,500円	45歳	273,000円
50歳	282,000円	55歳	283,000円		

2.年間一時金

- ①月数 年間5ヶ月以上を基準とする。基準を下回る場合は、最低でも昨年獲得実績以上とする
- ②要求基礎 要求の基礎は、賃金引上げ後の基準内賃金とする。
- ③最低保障制度 40%以上を基本とする。

3.働き方の改善 (総実労働時間短縮を含む)

- ①所定労働時間1952時間未達組合は、引き続きその達成に向けて取り組む。
- ②有給休暇取得向上に取り組む。
- ③所定外労働時間の削減に向けて、36協定の年間特別延長時間の引き下げの取り組みを計画的に進める。
- ④労働時間に関する労使協議の場の設置など、取り組みの基盤整備を推進する。
- ⑤年間休日数については、可能な限り早期に5日増を目指すものとするが、各組合の実情も考慮の上、活動の実効性を高めるために春の取り組みもしくは、秋の取り組み(通年含む)で労使交渉を行うこととする。また、上部団体と連携を図り、自動車産業全体の取り組みとして共闘効果を高め、現休日数から2027年までに5日増を目指す。

4.非正規労働者に関する取り組み

- ①「同一価値労働同一賃金」に基づく、賃金・一時金を始めとした労働諸条件の改善
- ②雇用に係る経営対策の取り組み(無期転換の取り組み、正社員登用の促進等)
- ③非正規労働者の組織化に向けた取り組み

5.解決日程の早期化

「次年度の労働条件は年度内に決定する」という基本スタンスを踏まえ、要求の前段階から「共闘を意識した要求日・回答指日の設定」や「回答指日付けの位置付けを高めるための組織内外への働きかけや効果的な交渉日程の配置」、「要求書への回答指日付けの記載と遵守の申し入れ」など、実態に沿った取り組みを推進する。

6.産業内外における輸送能力の向上に向けた取り組み

- ・車両の生産・販売を足元から支える輸送部門の仲間の心身の健康や輸送能力の確保、法令遵守の観点からも、荷物の積み降ろしや荷待ちなどの実態を把握し、輸送能力の最大化や課題の解決に向け労使で取り組みを進める。

7.人権デュー・ディリジェンスについて

- ・人権デュー・ディリジェンス(人権DD)は企業活動における人権侵害を撲滅するため、取り組みを推進する。

【取り組み日程】

- 要求書提出
スズキ労組 2月12日(水)までとする。
スズキ労組以外(製造・輸送部門) 2月13日(木)～2月19日(水)
スズキ労組以外(販売部門) 2月13日(木)～2月21日(金)
- 統一交渉日
第一回目 2月13日(木)～21日(金)(第二回目以降は交渉ゾーンを設定)
- 回答指日
業種ごとの課題を整理した上で、製造部品輸送部門は3月内決着を、販売部門は4月末決着を目標に取り組む。

2025年総合生活改善の取り組み「スローガン採択」
働きがい高め
明るい未来を切り拓こう!

スズキ労連 第77回中央委員会 武藤会長あいさつ(要旨)



スズキ労連で会長を務めております武藤です。

本日は、お仕事でお疲れのところスズキ労連第77回中央委員会にご参加を頂きありがとうございます。

はじめに

まずは、昨年元日に発生した能登半島地震から早一年が経過しました。その後の9月には豪雨災害においてもお亡くなりになられた方、被害を受けた方々が多くいらっしゃいました。現地では今なお厳しい状況が続いていることと思います。改めて心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興と、地域の皆様が一丸となり、力強く立ち上がられますことをお祈り申し上げます。

また、本日1月17日は阪神・淡路大震災の発生から、丸30年を迎えます。1994年の1月17日のまだ多くの家庭が眠りにについている早朝の時間帯に、激しい揺れに見舞われ「震度7」を記録した地震です。この地震により国民の防災意識も向上し「防災」というものが日本社会の最重要課題として浮かび上がった出来事でした。あらためて近年の度重なる甚大な自然災害に対し、労働組合の考え方の基本である「助け合い・支え合い」の重要性を再認識し、かけがえのない日常に感謝しながら日々粛々と備えてまいりたいと思います。

そして、昨年末12月25日には鈴木修相談役が逝去されました。社長就任当時1700億円だった売上収益を3兆超え、4兆近くまで大きく伸ばし、今のスズキを作り上げた、そういう人物だったことは言うまでもありません。1978年に社長に就任して以降、2021年の会長退任まで43年間、トップとして全力でスズキを引っ張り続けたことは皆さんご承知の通りでございます。昨年、この修相談役の逝去によって一つの時代が終わり、今年は本当の意味で新たな時代の始まりの年ということになろうかと思います。鈴木修相談役のこれまでのご功績に敬意を申し上げ、慎んで哀悼の意を表すとともに、ご冥福をお祈りしたいと思います。

さて、まずは10月の衆議院選挙について触れたいと思います。今回の選挙は、自民党の裏金問題に端を発した政治への強い不信感から与党が15年ぶりに過半数割れとなりました。

そして、野党、私たちが支持する国民民主党が議席数を7議席から4倍増の28議席に増やす大躍進を果たしました。

まずは全国各地域で取り組みにご尽力いただいた皆さんに感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。言わずもがなのことですが、議席数が増えることで、国民民主党はより多くの政策提案を行うことができます。政府の政策に対する意見や、改善案を提出する機会が増え、少数野党であってもそこに深く関与することができるようになりました。これにより、政策議論が活発になりこれらの議論が党の立場を強化することにもつながります。今回の衆議院選挙では、我々一人ひとりの投票行動によって政治が動かせることが証明されたということでもあります。

政策面でいうと、ガソリン減税と、所得税減税いわゆる103万円の壁は、税金を納める側の立場で私たちの生活に密着した、家計に直結する2つの注目政策です。また、車体課税の軽減・簡素化を含めた自動車関係所得税の抜本改革に関して、スズキ労連においては特に軽自動車は国内生産であり、税制の変更は雇用に関わる重要な政策課題として、いそぎ・はまぐち両議員には引き続き力強く推進いただくことを期待しています。

本日、中央委員会後段には、いそぎ哲史さんの必勝団結集会も予定しております。その場で改めて全員による心合わせをしたいと思いますので引き続きのご参加よろしくお祈りします。

さて、本日の中央委員会は、スズキ労連の昨年9月から12月までの活動について報告を行い、さらに2025年総合生活改善の取り組み方針を決定する極めて重要な場となります。方針の策定にあたっては、産業・企業の実態を直視し、今求められている労働組合としての役割、責任を踏まえ、これまでの間中央執行委員会にて方針案を論議・検討してまいりました。

私からは、取り巻く環境及び今次取り組みの持つ意義を中心に、いくつか所感を述べさせていただきます。

取り巻く環境

世界経済

まずは取り巻く環境についてですが、10月のIMFの経済見通しによりますと世界経済成長率は2023年が3.3%2024年、2025年ともに3.2%となる予想で、勢いは欠けるものの今後も安定して成長し続けることが見込まれるというのが世界です。

日本経済

日本経済は、12月20日に閣議決定された内閣府の政府経済見通しによりますと、景気は“一部に足踏みが残るものの緩やかに回復している”としており、先行きについては“雇用・所得環境が改善する下で各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される”と判断しています。

さらに、日本の2024年度の実質GDP成長率は、10月時点での日銀見通しでは0.6%となっております。前年度が0.8%ですから緩やかな成長が続いていると見込めますが他国と比べますと依然として勢いに欠けている点は否めません。

2025年度成長率は実質年率換算で1.2%程度、名目で2.8%程度とすることが見込まれるとしています。

2024年度の消費者物価については、生鮮食品を除く総合でこれも10月時点ですが前年比+2.3%昨年が+2.9%一昨年度が+3.6%そして今年の見込みが+2%台後半ということで、これだけの物価上昇があるわけですから私たちの日常生活に影響を与えていることは言うまでもありません。

自動車産業の現状

自動車産業を取り巻く環境については、EVや自動運転などの技術革新や環境規制、シェアリングサービスなどの市場の変化と消費者ニーズの変化また、グローバルな競争、新興国市場の成長など取り巻く環境は非常に多様です。これらの要素からみても自動車産業全体の労働力は重要である一方、慢性的な人手不足は深刻な問題となっております。このような厳しい環境下の中にあっても、自動車産業は我が国の基幹産業であることから、総合生活改善の取り組みにより、日本経済のけん引役となりその役割と責任を果たしていかなければなりません。

スズキを取り巻く環境

スズキを取り巻く環境ですがスズキグループ全従業員の努力と協力により、第2四半期連結決算では4-9で売上収益は2兆8,550億円、営業利益3,349億円という結果となりました。また、通期の売上収益は通期予想で5兆6,000億円億円としています。営業利益は前回予想から700億円の上方修正となる5,500億円の見込みです。

これらは、為替の円安による影響や各部門における収益改善努力により増収増益となり特に国内四輪事業において価格改定やモデルミックスの改善が増益に貢献したとしています。詳しくは決算資料を確認頂きたいと思います。

休日増の取り組み

最後に、スズキ労連としての休日増の取り組みについてですが、先ほど申し上げました賃金引上げに加え産業の魅力を高め、人材確保・人材の定着に繋げていくため、9月の自動車総連の大会で運動方針の補強案が示され、重点活動項目の一つとして掲げられました。

企業側が休日増を積極的に提供するためには、経営の効率化や生産性への影響など、各社、各組合の実情も考慮しながら進める必要があります。春の取り組み、あるいは秋の取り組みなど、通年の取り組みとして労使で検討を進めていく事で、現在の日数からの休日増を目指してまいります。いずれも一朝一夕にはいかない話であり、上部団体と連携を図り、自動車産業全体の取り組みとして共働効果を高めることで取り組みの前進を図ってまいりたいと思います。

最後に

結びになりますが、各単組が要求構築の結果、導き出される金額は、一昨年から継続している物価上昇や、実質賃金の低下から組合員の生活を守るためにも賃金引き上げの流れを一過性のものとすることなく継続的な賃金引き上げを実現させていかなければなりません。現状の姿、目指すべき姿、目指したい姿を経営にしっかりと訴えていくことが労働組合としての責務とも言えます。

加盟組合の皆さんのご支援とご協力をお願い申し上げます。スズキ労連執行部を代表しての挨拶に代えさせていただきます。よろしくお祈りします。ありがとうございました。

すべての議件を可決・承認頂きました。

スズキ労連 第77回中央委員会

【報告承認事項】(報告者)

- ①53期中間活動経過報告(金子事務局長) 拍手にて承認
- ②53期中間会計決算報告(佐々木副事務局長) 拍手にて承認
- ③53期中間会計監査報告(梶谷会計監査人) 拍手にて承認



司会：伊藤中執



金子事務局長



佐々木副事務局長

【議件】(提案者)

- ①2025年総合生活改善の取り組み方針(案)の件(金子事務局長) 挙手にて可決
- ②スズキ労連規程改訂の件(山本副会長) 挙手にて可決



金原会計監査人



山本副会長

【来賓あいさつ】

自動車総連組織内議員 いそざき 哲史 参議院議員
自動車総連組織内議員 はまぐち 誠 参議院議員



いそざき 哲史 参議院議員



はまぐち 誠 参議院議員

【顧問あいさつ】

スズキ労連政治顧問 田口 章 静岡県議会議員
スズキ労連政治顧問 岩田 邦泰 浜松市議会議員



田口 章 静岡県議会議員



岩田 邦泰 浜松市議会議員

【各委員の皆さん】(☆印は委員長) 敬称略

議長：山田 美香(スズキ労組浜松支部)・齋藤 祐衣(ベルソニカ労組)
資格審査委員：☆渡邊 恭弘(スニツク労組・労連中執)・坂中 寛樹(小楠金属・熱処理労組)
藤井 陽一(スズキ部品富山労組)・小嶋 陵太(スズキ新潟販売労組)
議事運営委員：☆神谷 弘樹(スズキ労組・労連中執)・近藤 大志(岐阜スズキ労組)
井上 紘兵(スズキ販売労組)・越川 康広(スズキ納整労組)
書記：加藤 裕子(スズキ部品秋田労組)・坂澤 真由姫(スズキ労連)
司会：伊藤 真将(スズキ輸送梱包労組・労連中執)



議長団 左) 山田 美香 中央委員
右) 齋藤 祐衣 中央委員

第27回参議院議員選挙 必勝団結集会

中央委員会後段に、7月施行予定の「第27回参議院議員選挙」に向けて、参加者全員で心合わせの「必勝団結集会」を開催しました。

武藤会長による開会宣言の後、野呂推進責任者による基本方針の再確認・情勢確認の共有を行い、労連を代表して山本副会長、嶋副会長、渡部副会長から決意の一言を述べました。最後に、組織内候補予定者の「いそざき 哲史」参議院議員から決意表明を行いました。



会場の様子



副会長決意表明



いそざき議員決意表明

2025年 「スズキ労連 政策制度・政治研修会 開催」



会場の様子

1月28日(土)9:30より、2025年政策制度・政治研修会をSUN会館にて開催しました。全体で132名(WEB参加含む)が参加しました。自動車総連組織内議員のいそざき哲史参議院議員、スズキ労連政治顧問、田口章静岡県会議員、岩田邦泰浜松市会議員、スズキ労連より嶋副会長、伊藤中央執行委員、佐藤中央執行委員によるパネルディスカッションを行いました。また、自動車総連の渡邊部長より、自動車総連の政策制度への取り組みについて、スズキ(株)の松田主幹より、スズキの人権デュー・ディリジェンスの取り組みについて、講演を頂きました。



組織内議員と労連役員とのパネルディスカッション

自動車総連の政策制度への 取り組みについて



自動車総連 業種政策局
渡邊部長

スズキの人権デュー・ディリジェンスの 取り組みについて



スズキ(株) 経営企画本部
サステナビリティ推進課 松田主幹



参議院議員 磯崎哲史公認 応援チャンネル

政策だけじゃない、
いそざき哲史の裏側

いそざき哲史TV

YouTube/@isozakitetsujitv



仕事、職場、労働条件、コンプライアンス、人間関係、私生活…
悩みはいろいろあるけれど、
職場ではちょっと相談しにくいなあ。

こんな時にはお電話を!

0120-500-073

*月~金 9:00~18:00

相談無料・秘密厳守



【スズキ労連】機関誌に対するご意見・ご要望が
ございましたら編集部までお気軽にお寄せ下さい。

編集部 〒432-8062 浜松市中央区増楽町20
TEL.053-447-3079 FAX.053-489-5523
e-mail: jimbo@suzuki-union.or.jp

◇スズキ労連ホームページ◇

<http://saw.gogo.tc/>

*スズキ労連の福利厚生・

スズキ労連機関紙

共通パスワード… saw2007



【編集後記】

1月17日に開催した「第77回中央委員会」で2025年総合生活改善の取り組み方針が満場一致で可決されました。これから本格的な春の取り組みがスタートしていきます。巷ではインフルエンザが流行中です。手洗い、うがい、マスク着用など基本的な感染対策をして体調管理をしっかりやりましょう。 じんじん